

6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰

平成 24 年度全国水産試験場長会会長賞表彰業績

○ウイルス性疾病対策によるハタ類養殖業の振興

愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
主任研究員 山下浩史

○高級魚キジハタの栽培漁業推進に関する研究

山口県水産研究センター
専門研究員 南部智秀

○「魚のゆりかご水田」に関する研究

滋賀県水産試験場
主任主査 上野世司

1) 審査委員長経過報告・講評

企画担当副会長をしております北海道の鳥澤です。

平成 24 年度全国水産試験場長会優秀研究業績表彰候補として、3 ブロックより推薦された 3 業績について、表彰審査委員会を開催して審査しましたので、その結果をご報告いたします。

全国水産試験場長会優秀研究業績表彰規定に基づき、平成 24 年 9 月 18 日に、東京都島しょ農林水産総合センター会議室において審査委員会を開催いたしました。

審査委員会では、当該推薦ブロック幹事から、それぞれ推薦書並びにプレゼンテーションに基づき、各研究業績の内容並びに推薦理由が説明されました。

それを基に、全国のブロック幹事から選出された審査委員長を含む 6 名の審査委員により審査を行いました。

まず、海面部会瀬戸内海ブロックより推薦のありました、愛媛県農林水産研究所水産研究センター養殖推進室の山下浩史主任研究員による「ウイルス性疾病対策によるハタ類養殖業の振興」です。

本研究では、海面養殖業の盛んな愛媛県において、利益率の高い養殖魚として期待されているハタ類のウイルス性疾病対策に取り組みました。マハタでは、安定養殖生産の大きな障害となっている VNN 不活化ワクチンを開発し、特許取得とともに製造販売承認も得て実用化しました。さらに、クエでは VNN 抵抗性を示す遺伝形質を持った雄を選抜することに成功しました。これらの成果により、ハタ類の安定養殖生産に向けた技術が開発され、今後のハタ類養殖振興による養殖漁家経営の安定化に大きく貢献するであろうことから、その成果が高く評価されました。

つぎに、海面部会西部日本海ブロックより推薦のありました、山口県水産研究センター外海研究部 南部智秀専門研究員による「高級魚キジハタの栽培漁業推進に関する研究」です。

本研究では、「幻の高級魚」と呼ばれるキジハタの種苗生産技術と種苗放流技術の開発に取り組みました。種苗生産技術開発では、ワムシの初期摂餌量と摂餌率を一定

以上に確保すること、並びに夜間の沈降による死亡を抑えることで、ふ化後 10 日齢までの生残率を 40%以上にする技術を開発しました。また、種苗の標識放流と漁獲されたキジハタの全数買い取りにより、放流されたキジハタの定着性が非常に高いことに加え、放流適地も明らかにしました。これらの成果が、キジハタの栽培漁業推進に向けて大きく貢献するであろうことから、その業績が高く評価されました。

最後に、内水面部会東海・北陸、近畿・中国・四国、九州ブロックより推薦のありました、滋賀県水産試験場 上野世司主任主査による「『魚のゆりかご水田』に関する研究」です。

本研究では、ニゴロブナなど、琵琶湖に生息する魚類に対する水田の産卵場、保育場としての機能を明らかにしたうえで、農業用支線排水路の水位や堰の構造等、魚類が遡上進入する条件を明らかにしました。これらのことにより「ゆりかご水田」として、水田の魚類の繁殖場としての復活、排水路自体の魚類育成機能の向上、農家や地域住民の環境意識の向上、環境にこだわった農産物作付け意欲の向上などに貢献したことから、その業績が高く評価されました。

以上のとおり 3 つの研究業績は、いずれもその研究成果のみならず、今後の地域の水産業や水産試験研究の発展に大きく寄与する成果として高く評価されたことから、平成 24 年度全国水産試験場長会優秀研究業績として表彰することが決定されました。

以上で、審査委員長経過報告及び講評を終わります。

2) 会長賞表彰式

田添会長（写真右）より各受賞者に対して、それぞれ表彰状が授与された。



前方から^{やました}山下主任研究員、^{なんぶ}南部専門研究員、^{うえの}上野主任主査